

4 アンケート調査による現状整理・分析

住民アンケート、高校生アンケート、関係機関アンケートを実施

住民 アンケート	目的	市民の移動実態の把握や公共交通に対する意識・要望の把握
	対象	上田市民 5,000 人（18 歳以上を対象に、地域別、年代別、男女別に人口比率による無作為抽出）
	方法	郵送または WEB にて回答
	調査期間	2022 年 2 月 1 日（火）～2 月 14 日（月）
	回収結果	回答数：2,266 件 回収率：45.3%
	整理内容	鉄道・バス利用状況、外出目的別の移動実態、要望等を整理
高校生 アンケート	目的	バス等による通学の状況や利便性向上に向けた意見・要望の把握
	対象	市内 6 校（定時制・通信制除く）の 2 学年の生徒全員（1,668 人）
	方法	WEB による回答
	調査期間	2022 年 2 月 25 日（金）～3 月 18 日（金）
	回収結果	回答数：217 件 回収率：13.0%
	整理内容	通学手段、登下校時刻、家族による送迎の状況、要望等を整理
関係機関 アンケート	目的	公共交通の利用状況や意見・要望の把握
	対象	病院（89 件）、福祉施設（20 件）、商業施設（46 件）、商業団体（45 件）
	方法	WEB にて回答
	調査期間	2022 年 3 月 14 日（月）～3 月 25 日（金）
	回収結果	回答数：49 件 回収率：24.5%
	整理内容	施設来訪者からの要望、施設からの要望等を整理

5 その他の取組

令和 4 年 5 月 25 日：上田市公共交通活性化協議会（アンケート結果などの報告）

9 月：広報うえだへの特集記事掲載（公共交通が抱える課題とこれまでの取組ほか）

9 月：5 つの地域協議会での公共交通の現状と課題の説明、意見交換

9 月, 11 月：計画策定ワークショップ（名古屋大学 福本雅之先生、交通事業者、庁内関係課）

7 月, 11 月, 1 月：長野県アドバイザー派遣事業（公認会計士、長野県交通政策課、交通事業者）

9 月：長野県公共交通活性化協議会・上田地域部会での圏域レベルでの検討

10 月：長野県公共交通活性化協議会（計画策定の先送り、地域連携 IC カード導入方針）

12 月：地域連携 IC カード説明会（県、JR 東日本、交通事業者、近隣自治体）

3 月 1 日：地域公共交通計画策定セミナー（北陸信越運輸局、名古屋大学 福本雅之先生）

3 月 18 日：交通まちづくりシンポジウム（上田ビジョン研究会主催、県知事参加）

6 今後の策定スケジュール

令和 5 年 6～8 月：計画素案の作成（福本雅之先生、交通事業者、庁内関係課による WG 会議、分科会）

8 月：計画素案に係る上田市公共交通活性化協議会における意見交換、内容の調整

9 月：計画案に係る地域協議会等における説明、意見聴取及びパブリックコメントの実施

10 月：上田市公共交通活性化協議会における最終計画案の確定

11 月：庁議における協議及び上田市議会への説明

：計画の公表

上田市地域公共交通計画（骨子案）

2023 年（令和 5 年）5 月

上田市

目 次

第1章 計画の概要

- 1. 1 計画策定の背景と目的
- 1. 2 計画の位置づけ
- 1. 3 計画の区域
- 1. 4 計画の期間
- 1. 5 計画の対象とする交通手段と担うべき役割

第2章 地域公共交通の現状と課題

- 2. 1 地域公共交通網形成計画の評価
- 2. 2 上田市の現況及び地域公共交通の現状
- 2. 3 地域公共交通を取り巻く課題..... 1

第3章 地域公共交通の基本的な考え方..... 2

- 3. 1 計画の基本方針
- 3. 2 計画の目標
- 3. 3 目指す地域公共交通の機能と体系

第4章 地域公共交通の維持・確保に向けた取り組み..... 6

- 4. 1 計画目標を達成するために取り組む事業
- 4. 2 事業の具体的な内容と実施スケジュール

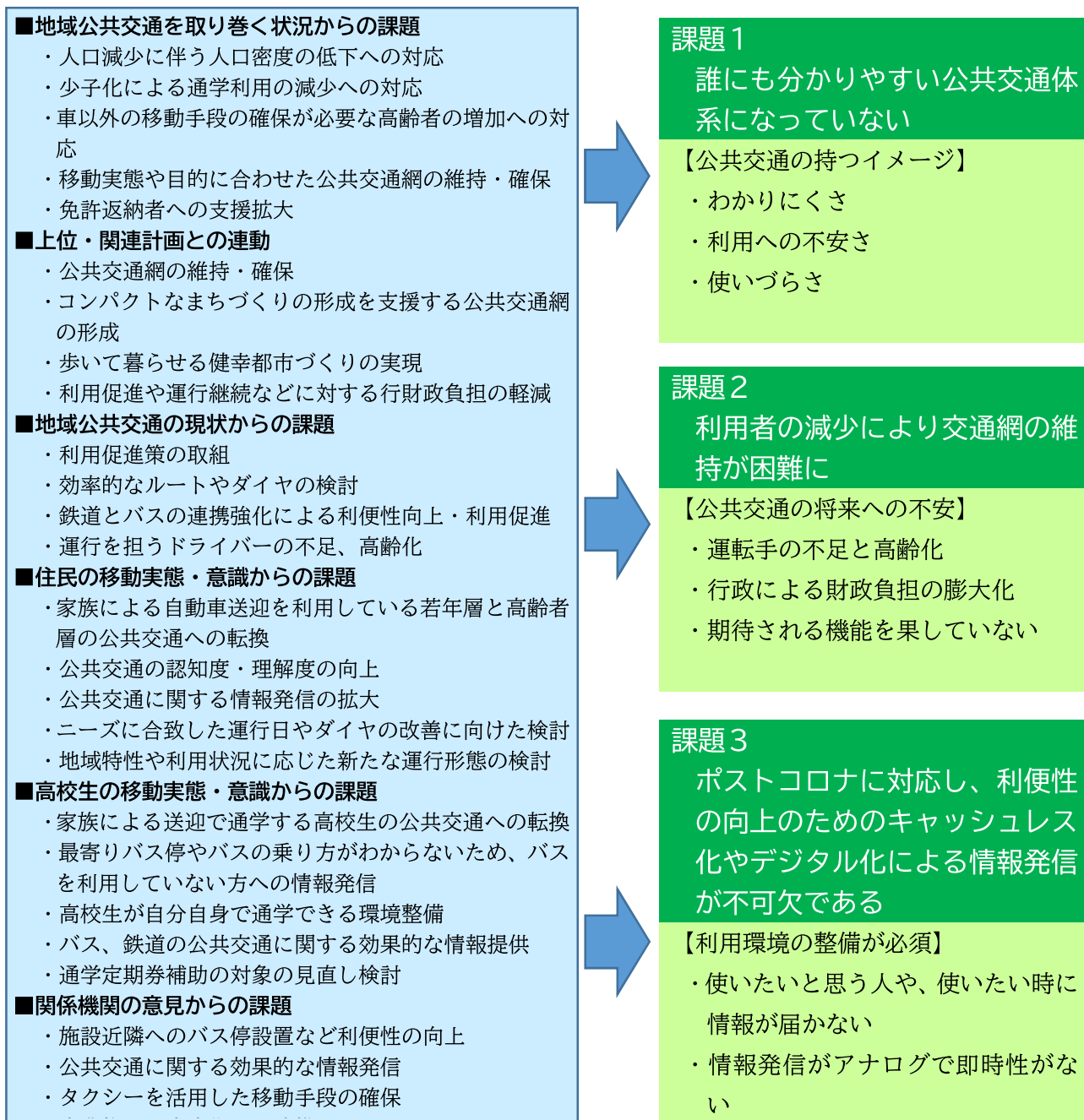
第5章 計画の実現に向けて..... 7

- 5. 1 評価指標と目標値
- 5. 2 計画の推進体制及び各主体の役割
- 5. 3 計画の進捗管理及び評価スケジュール

第2章 地域公共交通の現状と課題

2.3 地域公共交通を取り巻く課題

上田市の現況及び公共交通の現状や、市民等による意識調査及びバスの利用実態調査の結果を踏まえ、地域公共交通が抱える課題と課題から導かれる上田市地域公共交通計画における方向性を以下のとおり整理しました。



◆ 上田市地域公共交通計画における方向性

- ① わかりやすく使いやすい公共交通体系の実現
- ② 将来にわたって持続可能な移動サービスの実現
- ③ 利用につながるわかりやすい情報発信の実現

図 2-1 地域公共交通の課題と計画における方向性

第3章 地域公共交通の基本的な考え方

3. 1 計画の基本方針

上位・関連計画によるまちづくりの方針や、公共交通の課題整理を踏まえ、以下のとおり上田市地域公共交通計画の基本方針を定めます。

地域をつなぎ 未来へつむぐ 公共交通 ～ 市民が誇りに思える地域公共交通の構築に向けて ～

3. 2 計画の目標

目標1 わかりやすく、安心して、使いやすい公共交通体系の構築

上田市には、北陸新幹線、しなの鉄道、別所線による鉄道網があり、また、上田駅を起点に多くのバス路線が運行されていますが、公共交通を認知していても、最寄りのバス停留所や乗り方がわからないなどの声も少なくありません。

そのため、現在利用している方が使いやすく、新たに利用される方にもわかりやすく、安心して利用できる公共交通体系の構築を目指します。

目標2 みんなで支える持続性のある交通体系の構築

公共交通の維持・改善には、「利用者・住民」「交通事業者」「行政」の三者が連携しながら三位一体で取り組んでいくことが必要不可欠です。

利用者と住民は「公共交通の積極的な利用と関与」、交通事業者は「安定的な運行に向けた運転手不足の解消や運行改善への取組」、行政は「効率的かつ効果的な支援と利用者・交通事業者の橋渡し」の役割を分担しながら、連携を強化し、持続性のある公共交通体系の構築を目指します。

目標3 利便性の向上に向けた公共交通DXの推進

上田市では、令和2年度より、公共交通におけるキャッシュレス化推進の取組として、QRコード決済（TicketQR）を導入し、現在では別所線、バス路線（一部路線を除く）、シェアサイクルや市営の温泉施設などで使用可能となっており、また、バス・電車の位置情報をリアルタイムに入手することもできます（バスロケーションシステム）。

今後もこの取り組みを強化し、蓄積された利用状況などのデータを、利便性向上のために有効活用するなど、現在、国が進めるMaaS（マース）やDX（デジタルトランスフォーメーション）への展開も視野に入れた取り組みを進めます。

※1：DX（デジタルトランスフォーメーション：Digital Transformation）とは、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズをもとに、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立するものです。（経済産業省 デジタルトランスフォーメーションを推進するためのガイドラインより）

※2：MaaS（マース：Mobility as a Service）とは、地域住民や旅行者一人一人のトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせることで検索・予約・決済を一括で行うサービスであり、観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段となるものです。（国土交通省 日本版 MaaS の推進より）

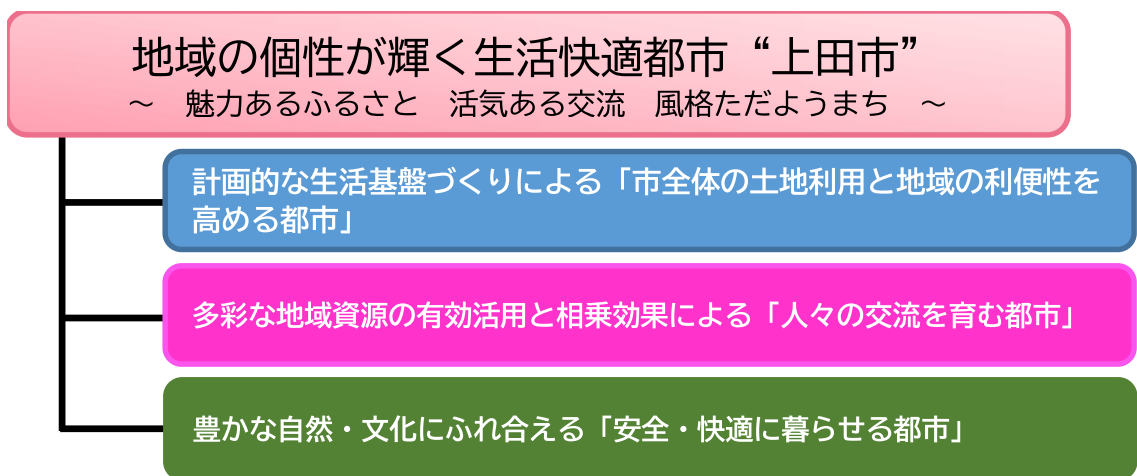
3. 3 目指す地域公共交通の機能と体系

(1) 「上田市立地適正化計画」における都市づくりの目標と方針

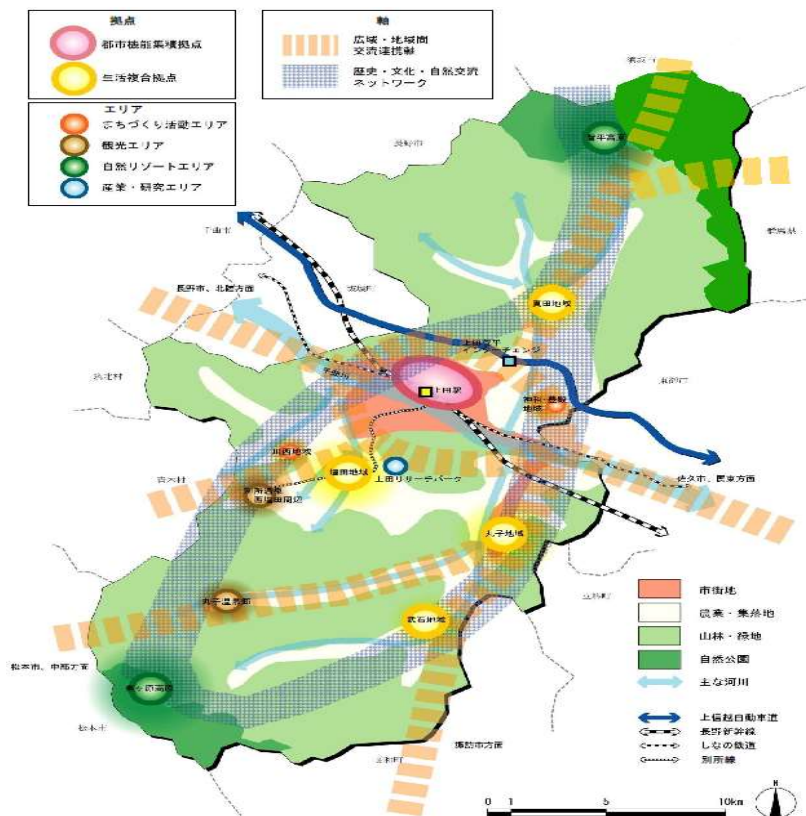
人口減少や少子化及び高齢化が急速に進む中、誰もが元気に暮らせる社会を実現するため、第二次上田市総合計画では「ひと笑顔あふれ輝く未来につながる健幸都市」を将来都市像とし、上田市の将来にわたる持続的な発展を目指しています。

また、上田市都市計画マスタープランにおいては、“住みつけていきたい”、“住んでみたい”と感じられる「地域の個性が輝く生活快適都市上田」を基本理念に掲げ、将来都市構造の基本的な考え方として「拠点集約型都市構造」の形成を目指すとし、高齢化や人口減少社会に対応したまちづくりの目標、方針を定めています。

よって、上田市立地適正化計画の基本方針については、これらの上位計画との整合を図ることとします。



【上田市が目指す将来都市構造】



資料:上田市都市計画マスタープラン「将来都市構造図」

(2) まちづくりとしての地域公共交通の目指す姿

上田市立地適正化計画における将来都市構造と機能分担を踏まえ、地域公共交通に求められる役割と価値を以下のとおり位置づけます。

▶ 地域住民の移動手段の確保

運転のできない学生や高齢者、障がい者、妊産婦等の交通手段の確保

▶ 人の交流の活発化

観光客等の来訪者の利便性や地域内での回遊性の向上により人の交流を活発化

▶ まちのにぎわい創出や健康増進

外出機会の増加によるにぎわいの創出や、歩くこと、外出先での目的による健康増進

▶ コンパクトシティ+ネットワークの実現

都市機能を集約した拠点同士や拠点と居住地域を結ぶ交通手段の提供

また、各交通モードや路線等が担う役割を以下のとおり位置づけ、公共交通体系を構築・維持します。

- ・輸送能力の大きい「鉄道軸」によって都市間及び地域内の広域的な移動をサービスします。
- ・「都市機能集積拠点」(中心市街地)と「生活複合拠点」(各地域)は「幹線バス軸」により結び、需要に応じつつ、拠点間は基本30分に1本とした高いサービスレベルで結ぶものとします。
- ・「生活複合拠点」(各地域)の中やその先を需要に応じて「支線バス軸」により効率的に結びます。
- ・観光的要素の強い広域バスは、市内での移動も含め主として上田市と市外を結びます。
- ・タクシーは鉄道やバスではカバーできない、細かいニーズを担う公共交通手段として位置づけます。
- ・その他、地域における輸送資源の総動員により移動手段を確保し、地域の移動ニーズにきめ細かに対応可能な体系を構築します。

表 3-1 各交通モードの位置づけ・役割 (1)

軸	位置づけ	役割	路線、系統ほか
鉄道軸	幹線 鉄道	上田市内と市外(都市間)の広域交通を担う。	・北陸新幹線 ・しなの鉄道
	支線 鉄道	上田駅と別所温泉を結び、地域内の基幹的な移動を担う。	・上田電鉄別所線
幹線 バス軸	幹線 バス	市内各地域から上田駅周辺の市街地への移動を担う。	・菅平高原線 ・傍陽線 ・青木線 ・真田線(渋沢線) ・鹿教湯線 ・長久保線
	広域 バス	上田市内と市外(都市間)の広域交通を担い、観光需要にも対応する。	・上田草津線 ・上田松本直行バス
支線 バス軸	支線 バス	幹線バスが運行されていない区域を中心に運行し、交通結節点等において幹線バスや支線鉄道に接続する。	・豊殿線 ・信州上田医療センター線 ・アリオ上田線 ・西丸子線 ・柵津線 ・武石線 ・丸子線 ・久保林線 ・塩田線 ・信州上田レイライン線 ・室賀線 ・中仙道線
	地域 バス	市街地や各地域内における高齢者、通勤・通学者、諸施設利用者等の交通手段を確保する。	・上田市街地循環バス(青バス・赤バス) ・オレンジバス ・真田地域ふれあいバス

※ 赤字：地域間幹線系統確保維持国庫補助金対象路線 青字：地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金対象路線

表 3-2 各交通モードの位置づけ・役割 (2)

軸	位置づけ	役割	路線、系統ほか
	デマンド交通	地域内における高齢者、諸施設利用者（一部通学者含む）等の交通手段を確保する。	<ul style="list-style-type: none"> ・丸子地域デマンド交通 ・武石地域デマンド交通
	タクシー	鉄道やバスではカバーできない、細かいニーズに対応する。	<ul style="list-style-type: none"> ・一般タクシー
その他		鉄道やバスではカバーできない、特定のニーズや目的に対応する。	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバス ・地域が主体となった輸送サービス ・福祉有償運送、介護タクシー ・お買い物バス
		既存の移動手段を自由に使えない方の個別のニーズに対応する。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族による送迎 ・ご近所による送迎（共助による輸送）
		その他	<ul style="list-style-type: none"> ・カーシェアリング ・シェアサイクル

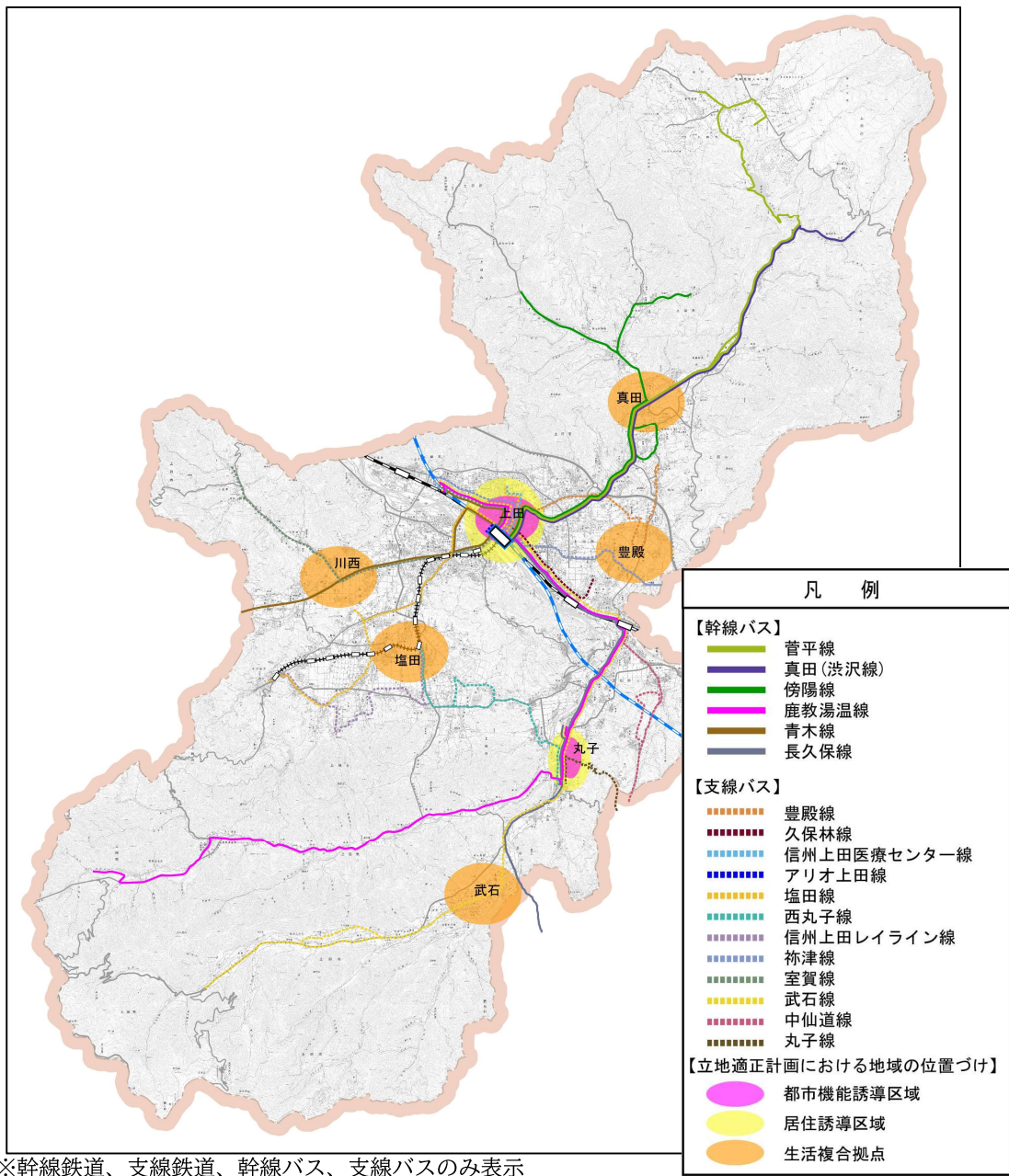


図 3-1 目指す公共交通の体系イメージ

第4章 地域公共交通の維持・確保に向けた取り組み

4. 3 計画目標を達成するために取り組む事業

具体施策を検討・調整中

本計画の目標を達成するために実施する事業及び、事業主体を記載

施策・事業名	目標 1	目標 2	目標 3	事業主体
(1) 地域公共交通の運行の維持・確保及び改善				
(2) 鉄道とバスの連携による交通ネットワークの強化				
(3) 利用者支援				
(4) 利用促進				
(5) 利用環境整備				
(6) 多様な手段の連携による移動				

4. 4 事業の具体的な内容と実施スケジュール

具体施策を検討・調整中

個別事業の実施目的、事業概要、実施主体、スケジュールを記載

- (1) 地域公共交通の運行の維持・確保及び改善
- (2) 鉄道とバスの連携による交通ネットワークの強化
- (3) 利用者支援
- (4) 利用促進
- (5) 利用環境整備
- (6) 多様な手段の連携による移動

第5章 計画の実現に向けて

5.1 評価指標と目標値

評価指標及び目標値を検討・調整中

(1) 評価指標と目標値

本計画の評価指標と目標値を設定

表 5-1 評価指標及び目標値 (例)

目標	評価指標	2022年度 (令和4年度) (基準年度)	2028年度 (令和10年度) (目標年度)
目標1 わかりやすく、使いやすい公共交通体系の構築	評価指標1 人口1人あたりバス利用回数	●回	●回
	評価指標2 人口1人あたり別所線利用回数	●回	●回
目標2 みんなで支える持続性のある体系の構築	評価指標3 バス運行事業における収支率	●%	●%
	評価指標4 人口1人あたりバス運行維持に係る年間負担額	●円/人	●円/人
目標3 利便性の向上に向けた公共交通DXの推進	評価指標5 QRコード決済アプリ利用率	●%	●%
	評価指標6 GTF S整備率	●%	●%

※社会情勢の変化や目標の達成状況を踏まえ、必要に応じて中間年に目標値の見直しを行います。

(2) 評価指標の設定根拠及び算出方法

評価指標の設定根拠及び算出方法を記載

5. 2 計画の推進体制及び各主体の役割

本計画の推進にあたっては、市民、交通事業者、行政等で構成される「上田市公共交通活性化協議会」において、様々な関係主体の意見を反映しながら事業を実施し、事業によっては必要に応じて、協議会メンバーにより構成する検討部会の設置や、個別の実施計画を別途作成するなど、検討・協議しながら推進します。

また、目標の実現に向けては、交通政策・まちづくり・福祉・教育・観光など様々な分野の施策と密接に関係することから、市民・交通事業者・その他関係機関等と行政が連携して取り組んでいきます。



主体	役割
上田市公共交通活性化協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通の維持・改善 ・計画の進捗管理 ・利用促進策の推進 ・関係機関の調整
上田市 (協議会事務局)	<ul style="list-style-type: none"> ・市民生活に必要な公共交通の維持 ・利用促進策の実施 ・近隣自治体との連携
交通事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な運行、公共交通サービスの質の向上 ・利用促進、情報発信 ・運行実績等データの公開
市民・地域	<ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通の積極的な利用 ・地域における啓発活動 ・地域公共交通の維持に係る活動
関係機関等	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通事業の実施、協力 ・利用促進の推進 ・市、上田市活性化協議会、交通事業者と連携した事業の実施

図 5-1 計画の推進体制と役割

5. 3 計画の進捗管理及び評価スケジュール

本計画で掲げた施策・事業を計画的に実行し、目標を達成するため、進捗管理・評価を行いながら、継続的な見直しを図っていきます。

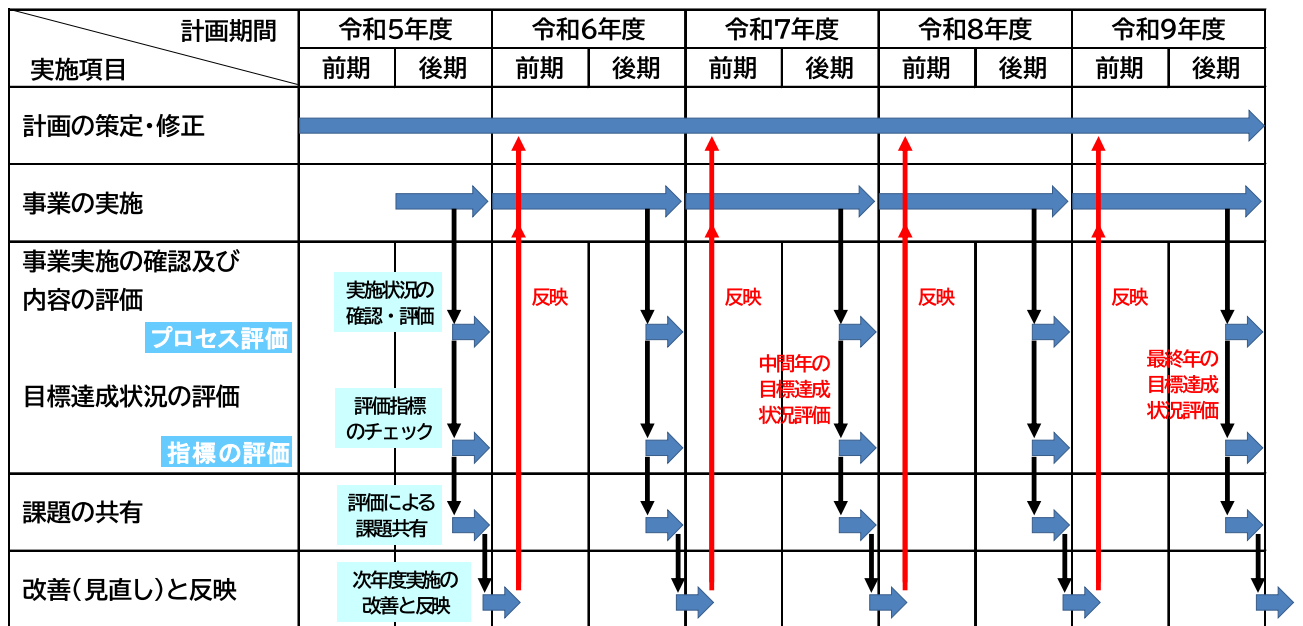
(1) 進捗管理

上田市公共交通活性化協議会において、毎年、事業の実施状況や評価指標の達成状況について、進捗状況評価シートを用いて進捗管理を行います。

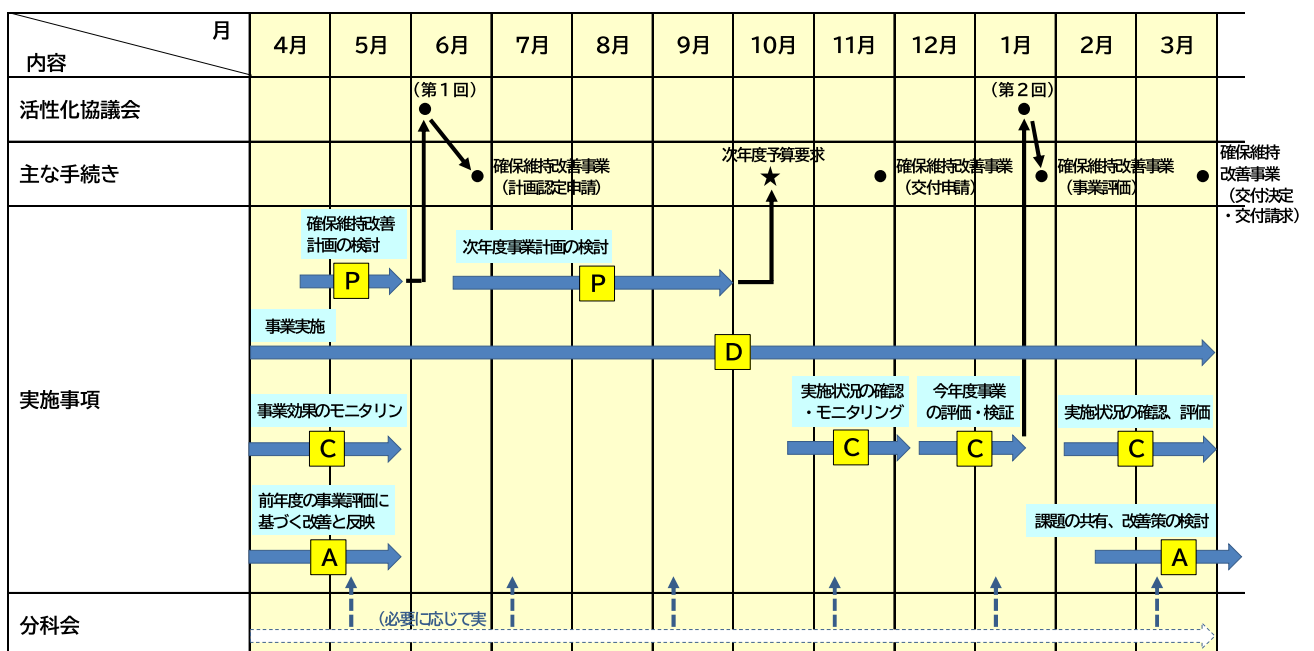
進捗状況評価シートは、例年6月に開催する上田市公共交通活性化協議会において、評価結果の報告を行います。

(2) 評価スケジュール

■ 計画期間中のスケジュール



■ 年間スケジュール



(3) 計画及び事業の見直し

① 目標達成状況や事業の実施状況に応じた見直しの方針

目標の達成状況や事業の実施状況に応じて、計画及び事業の見直し検討を毎年行うとともに、利用状況の分析、利用者や住民からの意見を踏まえ、利用促進に向けた見直しを行います。

なかでも特に利用者数に着目しますが、コロナからの回復状況も踏まえつつ、次のような状況の場合などには、その状況を沿線住民に周知し、路線の維持に向けた取組を住民と協働で検討します。

- ◆公共交通維持・改善に対する国、県の財政補助が打ち切られるなどした場合
- ◆利用が現状に比べ半減するなど著しく減少している路線や便等が確認された場合

② 上位・関連計画の策定状況・進捗状況に応じた見直し

上位・関連計画の策定状況や計画の進捗状況に応じて、適宜、計画及び事業の見直し検討を行います。上位計画等に示されているまちづくりの方向性との整合を図り、まちづくりと連携した公共交通網の構築を推進します。

進捗状況評価シート①

令和 年度 上田市地域公共交通計画 個別事業の実施状況

1 事業の概要

--

2 個別事業における取組状況

事業名	実施状況	実施内容等
(1) 地域公共交通の運行の維持・確保及び改善		
① 施策		
② 施策		
③ 施策		
(2) 鉄道とバスの連携による交通ネットワークの強化		
① 施策		
② 施策		
③ 施策		
(3) 利用者支援		
① 施策		
② 施策		
③ 施策		

※ 実施状況 ・実施：○ ⇒ 具体的な実施内容、回数等を記載 ・未実施：× ⇒ 未実施の要因、理由を記載
 ・実施に向けて検討中：△ ⇒ 検討状況等を記載

進捗状況評価シート②

3 目標に対する達成状況

	目標値	基準値	実績値				
	-	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
評価指標1：人口1人あたりバス利用回数	回	回	回	回	回	回	回
	達成状況に関する考察						
	改善策、今後の方針等について						
評価指標2：人口1人あたり別所線利用回数	回	回	回	回	回	回	回
	達成状況に関する考察						
	改善策、今後の方針等について						
評価指標3：公共交通事業の収支率	%	%	%	%	%	%	%
	達成状況に関する考察						
	改善策、今後の方針等について						

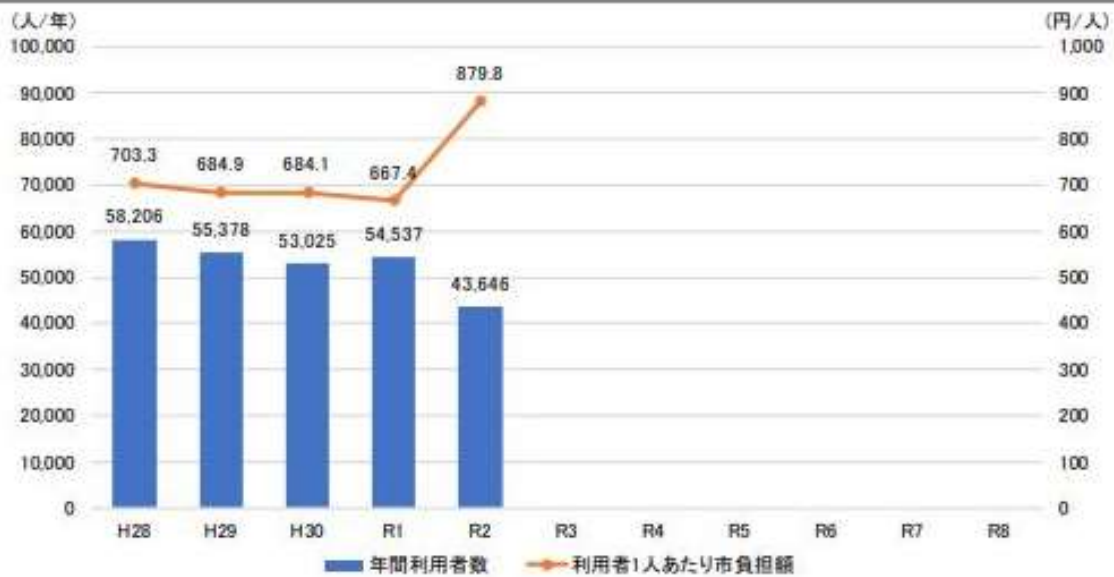
【参考：バス運行モニタリングシート】

■モニタリングシート イメージ

〇〇〇〇路線

	年間利用者数 (人/年)	便あたり利用者数 (人/便)	利用者1人あたり市負担額 (円/人)	収支率 (%)	運行経費 (円/年)	経常収入 (円/年)	市負担額 (円/年)
H28	58,206	13.3	703.3	13.3	54,537,490	7,272,304	40,939,000
H29	55,378	12.7	684.9	13.7	51,535,018	7,066,086	37,926,000
H30	53,025	12.1	684.1	13.3	50,988,151	6,768,363	36,277,000
R1	54,537	12.5	667.4	13.7	51,478,746	7,049,765	36,398,000
R2	43,646	10.0	879.8	10.6	52,887,870	5,596,667	38,398,000
R3	0	0	0	0	0	0	0
R4	0	0	0	0	0	0	0
R5	0	0	0	0	0	0	0
R6	0	0	0	0	0	0	0
R7	0	0	0	0	0	0	0
R8	0	0	0	0	0	0	0

年間利用者数・利用者1人あたり市負担額の推移



利用者数等の変化に対する考察

・
・
・

課題の整理

・
・
・

次年度以降の対応方針

・
・
・